



学校と自身の「リアル」に気づき、変化を生み出すワークショップ
(学校法務) 開催要項

1 趣 旨

「令和の日本型学校教育」の実現に向けて、子どもたちの学びの転換とともに、教職員自身の学び（研修観）の転換を図ること、実践と省察の往還や豊かな対話をとおして教職員研修の質を上げていくことが求められている。

そこで、学校の「リアル」を学校法務の視点から解明し、学校や教職員の在り方を捉え直すこととし、教職大学院と教育委員会が連携し、学校法務の専門家（弁護士）とともに豊かに対話し語り合う「NITS カフェ」を開催する。

2 主 催

山口大学大学院教育学研究科教職実践高度化専攻（教職大学院）・教育学部
独立行政法人教職員支援機構山口大学センター

3 共 催

山口県教育委員会

4 開催日時

令和7年12月27日（土） 9：00～12：30

5 開催場所

公立学校共済組合山口宿泊所「セントコア山口」（2階 サファイアホール）
〒753-0056 山口市湯田温泉 3-2-7 Tel:083-922-0811

6 参加者

現職教職員、教育委員会関係者、教職志望学生、保護者、地域教育関係者や大学教職員 等

7 研修内容等

- (1) 開会行事 (9:00～9:10)
挨拶 山口大学大学院教育学研究科教職実践高度化専攻 専攻長 佐々木 司
- (2) ちゃぶ台ワーク（開示・共有・対話） (9:10～10:10)
テーマ 「学校のリアルから考える」
FT 山口大学プログラム運営スタッフ
- (3) 講義演習 (10:20～12:20)
テーマ 「教育現場にも法の支配を」
講師 山口県弁護士会（いたむら法律事務所） 弁護士 藤村亮平 さん
- (4) 午前のまとめ (12:20～12:30)

8 その他

- (1) 本研修事業は、独立行政法人教職員支援機構「NITS・教職大学院・教育委員会等コラボ研修プログラム支援事業」受託経費、同「山口大学センター」運営経費、山口大学教育学部「ちゃぶ台研修部」事業経費等により運営される。



ちゃぶ台次世代ステップアップ研修講座「学級（会員）通信」
（ちゃぶ台次世代コーホート Advanced Course）

No.3 2025.10.17

教職員支援機構(NITS)山口大学センター・山口大学・山口県教育委員会



道徳を「自分ごと」に!自分で自分をどうするのか、どうしたいのか!に伴走する!

10月4日（土）、早朝から広島・山口の先生たち19人、教職大学院の学生たち12人と講師や大学関係者12人が山口大学教育学部（21番教室）に集まってきました。今回は午前が「ちゃぶ台次世代コーホート Advanced course」の「第3回研修会」、午後は「同 Basic course（初回）」に乗り込む形での「第4回研修会」でした。



終日の研修、タイトな日程、内容盛りだくさんでしたが、そこは流石の「Cohort（このプログラムでは、教育や教職の夢や志でつながる仲間集団の意味）」たち。それぞれの教職員として力（資質能力）や人としての器に「ますますの広がり」と深まり」を持たせる「学びの秋」にしてくれました。

ちゃぶ台対話「道徳教育と私のヒストリー ～成功・感動体験から考える～」

今回のテーマは「道徳教育」です。参加者全員が「my実践の振り返りと省察を可視化したシート」を用意しての「ちゃぶ台対話」です。

今までの道徳教育の実践から満足度や充実感の高いものを開示・共有し、共通する要素や価値を一緒に探り、一緒に考える温かな対話。道徳科・公民科や特別活動の授業から様々な教育活動まで、豊かな実践とそれらをつなぐ教育や指導の「肝」を味わう豊かな時間でした。



受講者のコメントから

事前課題を作成する時から、「評価の高い・満足度の高い」道徳授業について、「私は何を基準にそう思うのか」と考えました。「子どもたちの話し合いが活発に行われる」「子どもたちの葛藤がみられ、心情の変容がみられる」「日常と結びつけて、行動も変容する」等いろいろあると思いますが、「授業の後も、教材や自分の考え・友達の考えについて話が続いている」と手ごたえを感じます。また、道徳授業に限らないと思いますが、ふとした時、子どもの発言の中に「（道徳の授業の時と）同じこと勉強したよね」が出てくると、「この子の中にちゃんと落ちているんだ」と心の中でガッツポーズします。そうした経験（実践の整理、振り返りと省察）をもとに対話しました。「どう自分ごととして教材に関わらせたり、授業に参加させるか」が中心でしたが、「道徳的体験には自分ごとにさせる力がある」、「体験したことの価値に気づかせることも大事」等の学びがありました。（小学校）

道徳教育には明確な正解があるものと自分たちで正解をつくりあげていくものがある。個々の最適解に気づくことや自分の答えを他者と磨き上げることが重要であり、それが教養にも繋がってくる。逆に道徳的に正しいことを教えることも重要であるが、それは唯一解といえるもので教えるのは簡単であるし、誰もが日常生活の中から知っているものであることが多い。しかしそれを自分ごとに落とし込めるかどうか教材研究となり、そこが道徳教育を作っていくうえで難しい点ではないかと考えている。また、学生の頃には気が付かなかったことでも、ふとした機会にじわじわ来る逸話や出来ごと、経験もある。この道徳的なじわじわ感をもっと突き詰めていけば、道徳心を深めることができるのではないかと考えた。（中学校）



経験のある先生ばかりで、目から鱗のお話をたくさん聞かせて貰いました。その中で、道徳の授業において、日頃の学級経営を土台とし、しっかりと問いをもって、多様な意見を聞きたいと思える授業づくりが大切であることを学びました。恥ずかしながら、宿題でいただいた「実践に関するお題」を思い出すことが当日までできなかったことを思うと、日々一つ一つの授業に関して、振り返って改善に努められていたのかということそうではない自分に気づかされました。立ち止まって、考える習慣をより身につけられる人になりたいと感じました。（小学校）

今までの道徳教育について話し合った時、学級の心地よさが基盤にあってこそできた実践がいくつかあった。何か間違えたことを言ったら、否定されるクラスではなく、どんな意見でも受け止めてもらえるクラスだからこそ、色んな児童生徒の価値観を伝え合うことができ、多角的な道徳的理解が進んでいくのだと思う。私は学級経営そのものが道徳教育につながるのかなと考えた。クラスの仲間がそれぞれの意見を尊重したり、支え合えたりする学級をつくることもまた、道徳教育なのだ気づかされた。（学部卒院生）

ちゃぶ台ワーク

私の「道徳」との出会いから、私たちが学びあえること

ワークの約束ごと

- 「ちゃぶ台」です。自由に、のびのびと、自分ささげ出して語りあひましょう。
- 全員が平等に互環で、対話（ダイアログ・チカカシゴト）に参加する。
- 全員が発言するよう時間を確保しましょう。
- 全員の思いや考えの影響を平等に譲る。
- 個人の発表を共感的・肯定的に聞きながら、よき、魅力や価値を学び取りましょう。
- 全員の思いや考えを、思い尊重、大切にします。



今回の対話で印象的だったのは道德授業を学級経営につなぐことが大切だというお話。道德で扱う内容は学校生活や学級での過ごし方に直結する。授業をして終わりではなく、学級通信などを活用して生徒の振り返りの内容をクラスにフィードバックすることで生徒が授業で行った内容を意識できるようになる。その後の生徒の変容につなげるという視点を意識して道德の授業づくりを行っていきたいと思った。(学部卒院生)

グループでの対話は、高校における道德教育の位置づけについて深く考える機会となった。高校には小中のような「道德科」はないが、道德教育が存在するという指摘から始まり、国語の授業で扱う中島敦の「山月記」を例に、登場人物の「自尊心」や「羞恥心」といった心情に生徒が自分ごととして重ね合わせることで道德的な学びが生まれことを確認した。さらに、国語に限らず、すべての教科がそれぞれの切り口で価値観や態度を育てる場になりうるという考え方にふれ、教科横断的に道德的な気づきを設計する意義を実感した。現職の先生方からは、単に知識を伝えるだけではなく、登場人物への共感を促す発問や対話的な学び、振り返りを書く活動など、授業の「仕掛け」がどのように生徒の内面の変容を促すかという具体的な工夫が示され、それらを自分の受けてきた授業の記憶と結びつけることで、抽象的な理念が実践に落とし込まれる様子をリアルにイメージできた。こうした対話を通して、私は今後の授業設計で、他教科と連携した倫理的ジレンマの提示、学習後の個人・集団での振り返りの導入などを意図的に取り入れ、教科の枠を越えて生徒の心に残る学びをつくっていきたいという具体的な方向性を得ることができた。(学部卒院生)



講義演習 「 道德教育の推進とミドルリーダー

～道德科における ICT の活用と、これからの道德教育～
香川大学大学院教育学研究科 教授 清水顕人 さん

教職大学院の教授として、学校・行政現場の指導者として、全国学会役員として、道德書籍・雑誌の著者・筆者として大忙しの清水先生。今回も超タイトなスケジュールの中を無理矢理のお願い。高松駅を 6:08 に出て「降臨！」いただきました。道德科授業のポイント、道德科での ICT 活用と評価から今後の道德教育の考え方まで、あっという間の 2 時間。全国区の先生に来ていただき感謝でした。清水先生、ありがとうございました。



受講者のコメントから

一番の学びは、道德的価値観は「動機(理由)」にあるという視点です。授業を二項対立で終わらせないための工夫として「問い返し」が重要であると学びました。特に、提示された7つの問い返しは、すぐに実践へ応用できる具体的な技術でした。同僚にも早急に伝え、実践力向上に役立てたいと感じました。

1. 確認焦点化: 決まりは何のためにあるの? 困るのは誰? それは本当に必要?
2. 根拠・理由: なぜそう思うの? どうしてそう考えたの?
3. 言い換え: それはどういう意味? つまりどういうこと?
4. 具体化: そうするには何をすればいい? 自分ならどんな行動をとる?
5. 比較・対比: ○○と○○はどう違う? 似ている例は?
6. 批判・反論: 本当にそう言えるの? 礼儀正しくすると楽しくなくなるの?
7. 条件変更: ○○の立場ならどうなる? ○○をしなかったらどうなる? (中学校)



内容項目の編成について、「中心価値なし」「価値を多数並列で扱う」「複数内容項目を並列して扱う」授業もあってよいのでは…というお話に驚きました。それだけ、社会的課題や現代的課題について考えることが道德科でも求められるのだと知り、「教育の不易と流行」について自身をアップデートしていく必要を考えます。また、授業の中で形成的評価を行っていく、「見守り、認め、励ますことで子どもに伴走する」という言葉が印象的で、これまで形成的評価を子どもたちに意識して返せていないことを反省しました。評価自体も「教師と子どもの共同作業」だとされ、評価を評価で終わらせず、子ども自身の成長や学びに結び付けられるよう、教師側が道德的

価値や一人ひとりの成長についてしっかり意識することが重要と学びました。

授業の終わり方についても、「大切にしたいことは共通理解できる」「教師も一緒に考え続ける、未解決の余韻」という言

授業の終わり方

- ・道德科: 自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習
1つの絶対的な解は存在するか? (1つにまとめられるか?)
- ◎ 大切にしたいこと (道德的価値) は共通理解できる
・ 共通解・納得解
- ◎ 授業の終末がポイント
・ それぞれの子どもが、道德的価値を基に「自己の(人間としての)生き方」を考えられているか
・ きれいに終わらない、教師も一緒に考え続ける 未解決の余韻
「先生、答え教えて、分らなくなってきた。」「先生も…」

自己開示★

- ・ 教師が自分に関する事実・感情・思考を、子供に語る技
「私は、みんなが～してくれてうれしい!」(感情)
「私は、人間の成長には～が大切だと考えている。」(思考)
- ・ 自己開示ができる人=あるがままの自分を受け入れている人
▲ 自己嫌悪に陥っている人は自分を見せたがらない 自己防衛
- ◎ 教師に親しみを覚える
- ◎ 教師の自己開示が、子どもにとって生き方のヒントになる
- ◎ 子どもも自己開示的になり(仮面性)、自分の本当の姿に気付く
園分母会(1998)「子どもたちの心を育てるカウンセリング」, 学事出版, pp.72-73

葉によい衝撃を受けました。私自身が子どもだった頃、「大人になったら答えを知っているから、学ぶことも悩むこともないのだ」と思っていたことを思い出し、そして翻って今の自身は「答えのない問いや課題に悩んでいる!そして、教職大学院に来て学んでいる!」というギャップに気づきました。学ぶ姿、悩む姿を子どもたちに見せることってキャリア教育の視点でも大事だと思うので、その姿勢を道徳科の授業でも子どもたちに感じてもらえたらいいなと思いました。(小学校)

特別支援教育では、これまで道徳教育にあまり注目されてこなかった現状があり、授業もされていないことがほとんどでした。しかし数年前から道徳の研究が始まり、自分の学校も道徳教育研究校に指定されているので、自身にとっても関心度の高い講義内容でした。知的障害が重度の児童に、道徳的な価値をどう見出すかは、現在も悩み続けている課題ですが、発達段階に応じた価値の見出しが大切であることを学びました。また、障害が重度の子にとっては、様々な体験を通して、心の揺さぶりを覚える活動から設定していく必要があると感じました。子ども達の心の動きを教員が見取り、しっかり価値づけあげることで、子どもの道徳性が育っているかを見取る必要があると感じました。(総合支援学校)



道徳教育は、年齢や経験年数は関係なく、どの教師も共に学び続けながら、学校全体で行っていくことの必要性が再確認できた。そして、「見守り、認め、励まし、勇気づける」ことの大切さも学んだ。清水先生の言葉や「問いが問いとして残ることもよい」という考えに、子どもと共に探究する教師のあり方を感じた。

「4本の木」の模擬授業の中での、自分がよいと思う木と理由を交流する活動は、本当にグループメンバーの選んだ木やその理由を聞いてみたいと思えた。このような「考え、議論する」、子どもたちが考え、対話したくなるような授業や発問を創っていきたいと思った。また、グループで選んだ木がもつ要素を抽出し、定義を具体的体験から再構築する学び方も経験させていただくことができた。今後は、ロイロノートやマイ・スタディオログも活用しながら、子どもの学びを積み重ねとして可視化し、共に振り返る実践をも重ねていきたい。(小学校)



道徳という教科については、一度だけ授業を行ったが、国語の読み取りのようになってしまい、生徒にあまり考えてもらうことができず、悔しい思いをしたことがあり、本当に難しい教科であると考えていた。そして、今回の清水先生の講義で、「道徳は教師も生徒とともに、悩み考える」ものであると知り、自分はこれが足りていなかったのだと深く理解した。道徳を行う上では、教師は教える立場ではあるものの、生徒とともに、教材に向き合い、生徒たちと考えを語り合い、考えを広げることが大切なのだと思えることができた。「共感的に受け止める」ということに関しては、受け止め方によっては生徒との解釈のズレが生じてしまうということで、単にそのまま受け止めるのではなく、生徒の発言について深掘りするといった「分かろう」とする姿勢で臨むことが「道徳の見方・考え方」を働かせる上でも大切であるのだと分かった。(学部卒院生)

道徳教育において、教師は「教える」のではなく、伴奏者であるということを知った。それは、道徳的な価値観は、人それぞれ非常に複雑であり変化し続けるものであるからだ。私自身もこれまでの道徳教育の中にあつた、「みんなで仲良く」や「嘘はだめ」といった言葉に対する考えが変化した。小学校の頃は、その言葉の通りに捉えていたが、中学校、高校と発達段階が上がるにつれて、「全員が自分と合うわけではないので上手く生き抜く必要があること」や「相手を傷つけないための嘘もあること」などを知った。途中、人間関係に悩み、自分の考えがわからなくなることもあった。ここからもわかるように、発達段階やそれまでの経験で人は道徳的価値観が大きく変わり、より複雑になる。教員として、その変化の中に児童生徒らがいることを念頭に置き、それぞれの価値観を受け止めたり、「わからない」という答えもまたその子の現在の価値観であるということのを忘れないでいたい。それと同時に、私自身も児童生徒と一緒に考えながら道徳教育に携わっていきたい。(学部卒院生)



芸術の秋!!!
ちゃぶ台 Kids 秋の大作展
絶賛開催中!

大好評でした! 多数のご来場
ありがとうございました。



山口大学「ちゃぶ台研修会」

託児会場

いっしょに!
くつをぬいで、おへやにはいってね!



「ちゃぶ台次世代コーホート Advanced course ・ Basic course」

令和7年度計画

主催：山口大学（教育学部・大学院教育学研究科・NITS山口大学センター） 共催：山口県教育委員会・山口市教育委員会



リーダー養成研修への自主的・自発的参画をとおして、
自ら学び取る・磨きあう・他者や学校を変えていける「自分」をつくる

教育委員会と連携・協働し、教員養成・採用・研修の一体的推進を図る「各ステージリーダー養成」プログラム



コーホート (cohort) の意味

「同一の性質を有する同年齢集団」→ 教職という立場や志でつながる同年代の仲間たち

ちゃぶ台次世代コーホートの基本

- ・学生、現職・大学教職員、教委関係者等による教員養成・教職研修の接続プログラム
- ・自主的・自発的な実践・研修意欲を尊重した各ステージリーダーの育成
- ・週休日を中心とする年間10回の連続・積み上げ型研修の実施(6月～3月)
- ・参加者が、それぞれの立場から、或いは立場を越えて協働し、実践と省察の往還、対話(開示・承認・共有・解明等)をとおして自立した個として成長し続ける

第1回 6月14日(土) 13:00~17:00 山口大学

① 研修びらき

山口大学プログラムスタッフ

② 令和7年度山口県教育の重点と教育予算ができるまで

山口県教育庁教育政策課 教育企画班長

③ 山口県地域連携教育の現在地とこれから

山口県教育庁地域連携教育推進課 地域連携教育班長

第2回 8月30日(土) 13:00~17:00 山口大学

① 初任・若手教職員(ステージ0・1期)の成長を支えるために

岐阜県教育委員会西濃教育事務所 所長 日比光治

第3回 10月4日(土) 9:30~12:30 山口大学

① 道徳教育の推進とミドルリーダー

香川大学大学院教育学研究科 教授 植田和也



第4回 10月4日(土) 13:30~17:30 山口大学

- ① コーホートの研修びらき
 - ② 集団・学級づくりの面白さと教員としての関わり
- 香川大学大学院教育学研究科 准教授 大西美輪

第5・6回 11月30日(日)の予定 山口大学

新しい学びを魅せる教育フェスタ in やまぐち(仮称)への参画

- ① 会員(現職・大学教職員等)によるブース開設とワーク
- ② 命のミュージアム in 山口大学

NPO法人 グリーフサポート山口 代表 京井和子

第7回 12月27日(土) 9:30~12:30 セントコア山口

行列ができるかも?の学校法律相談所-Café(現代的課題セミナー)

- ① 学校の教育活動を法務の視点から探る
- いたむら法律事務所 弁護士 藤村亮平



第8回 12月27日(土) 13:30~17:00 セントコア山口
保護者と集い・交わり・学び合うNITS-Café(現代的課題セミナー)
① 保護者との対話をとおして、学校や教育を考える交流会
山口県PTA連合会役員他

第9回 3月14日(土) 10:30~12:00 山口大学
① 1年間の研修を振り返る
山口大学プログラムスタッフ

(大学院「山口県教育の現状と課題」受講者対象 他会員にも公開)

第10回 3月14日(土) 13:00~17:00 山口大学
① 企業経営における若手人材への期待、人材育成の実際
日本エアーコンジショナーズ株式会社 専務取締役 吉野英紀
② これからの教育を動かす皆さん、若手教員への期待
萩市教育委員会 教育長 池田廣司



「ちゃぶ台次世代コーホート」の研修スタイル

① 講義・演習型研修

教員としての資質能力を高めるため、指導者を招いた講義演習、研究協議や「ちゃぶ台ワーク」等を行う

内容 組織経営とマネジメント、カリキュラム・マネジメント、コミュニティ・マネジメント、教育政策の諸動向と教育施策、リスク・マネジメント、学校・地域の連携・協働、令和の日本型学校教育、新しい学びの推進、人材育成、学習・生徒指導、インクルーシブ教育、ICT活用、保護者対応、ビジネスマナー、人間的素養 等

講師 公立・附属学校・大学教員、企業経営者、行政・NPO指導者、弁護士、医師、施設指導者、県P連役員、人材育成担当者、アナウンサー、歌手、アスリート等



行政研修との棲み分け、研修内容・方法・形態等の工夫により教職員の成長を支える

② ちゃぶ台ピア・サポート

個々の教育実践上の悩み、不安、成功体験等について自己開示し、共感的、支持的に理解しながら、課題の解決や仲間意識、連帯感の醸成を図る

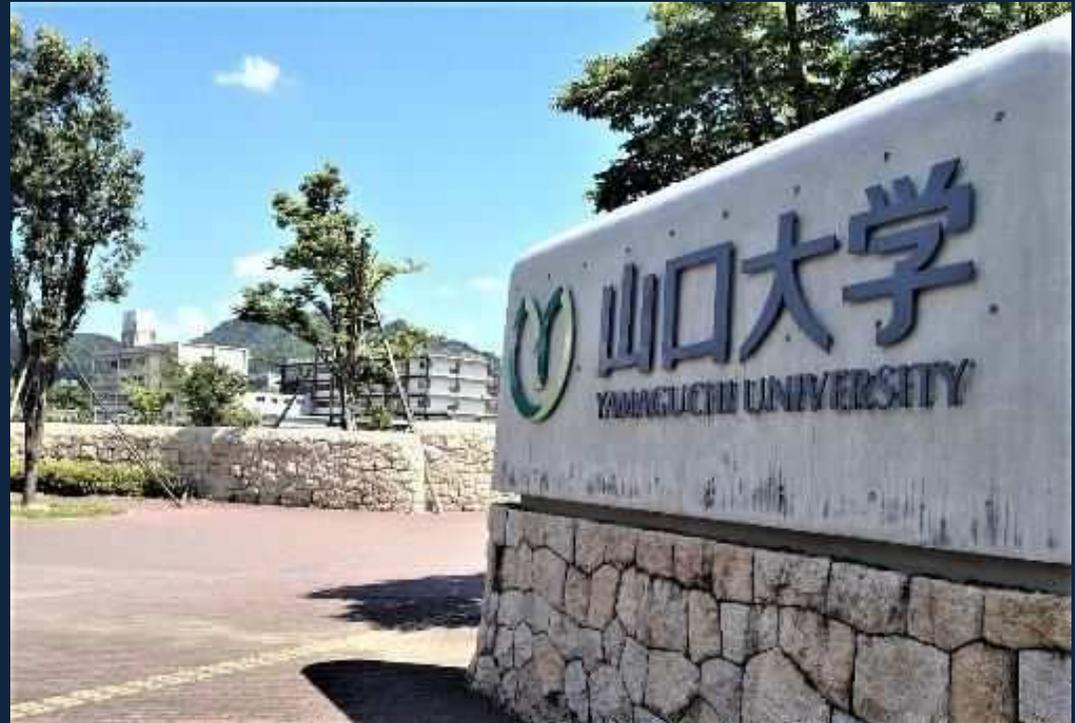


③ 指導助言体験・省察型研修

ケーススタディー等での支援者、助言者として、また実践発表者や事例提供者としての役割を果たす中で、自らの学びや経験を深め、リーダーシップの在り方等を体得する



「ちゃぶ台」の精神を生かし、大学教職員も教委担当者も、フラットな関係性で学び、高めあう



事務局 コーホート 藤上真弓 933-5399
fujikami@yamaguchi-u.ac.jp

Advanced 霜川正幸 933-5458
m-shimo@yamaguchi-u.ac.jp